

令和2年度 年間教科シラバス

中学・高校	中学	学年	1年		一貫
教科	技術・家庭	科目	家庭	単位数	1
担当者	全組	鍋嶋 智美			
教科書	技術・家庭科(家庭分野)教育図書		副教材	被服実習小物教材	

○学習到達目標

生活の自立に必要な基礎的、基本的な知識や技術を習得する。

- ①家庭分野 家族と家庭生活・幼児の生活と家族
家庭の中の自分を知り、幼児の生活と家族とのかかわりについて理解する。
- ②家庭分野 健康と食生活
健康と食生活について考え、栄養に関する知識を深める。
自己の食生活を見直す。

○教科道徳教育到達目標

ものづくりや実習を主体的に体験することによって、ものの大切さを知り、より良い生活を送るための態度や知識を身に付ける。

○学習方法

講義：教科書、プリント、掲示資料等で学習を進めていく。
ノートは定期的に回収し、学習状況をチェックする。
学期に数回小テストを実施し、理解度を確認しながらすすめる。

実習：調理実習は年3回実施する。
被服実習では小物を1作品完成させる。

○グレード別授業の基準

○指導計画(学習内容・考查等の予定)

家庭分野のガイダンス	教科書P30～幼児の生活と家族 幼児の心身の特徴	教科書P68～健康と食生活 食生活を考える 栄養素の種類とはたらき
教科書P6～家族と家庭生活 家族のことを考えてみる。	教科書P44～幼児の生活と家族 幼児の遊びと発達	教科書P78～健康と食生活 食品に含まれる栄養素
教科書P10～家族と家庭生活 家族とのかかわりと家庭生活について考える。	教科書P48～幼児の生活と家族 幼児のおもちゃ 幼児とのふれあい	3学期末考查 調理実習
教科書P20～家族と家庭生活 家庭と地域のつながり、将来の自分の家族や家庭について考える。	2学期末考查 調理実習 被服実習	被服実習
被服実習		
1学期末考查		

○評価方法

各学期ごとに、期末考查・ルーブリック評価を行い、学期成績を算出し、すべての学期成績の平均を学年成績とする。
(期末考查50% ルーブリック評価50%)

※ルーブリック評価観点表は別紙参照

令和2年度 年間教科シラバス

中学・高校	中学	学年	2年		一貫
教科	技術・家庭	科目	家庭	単位数	1
担当者	全組	鍋嶋 智美			
教科書	技術・家庭科(家庭分野)教育図書		副教材	被服実習小物教材	

○学習到達目標

生活の自立に必要な基礎的、基本的な知識や技術を習得する。

- ①家庭分野 献立作成と食品の選択・日常食の調理と地域の食文化
献立作成と食品の選択について理解する。
衛生の大切さを知るとともに、調理の基礎を習得し、地域の食材や食文化への理解を深める。
- ②家庭分野 私たちの衣生活・住生活
衣服の着用や入手について考え、手入れや収納、処分までの衣服管理について理解する。
住まいのはたらきについて知り、安全で健康的な住まいについて考える。

○教科道徳教育到達目標

ものづくりや実習を主体的に体験することによって、ものの大切さを知り、より良い生活を送るための態度や知識を身に付ける。

○学習方法

講義：教科書、プリント、掲示資料等で学習を進めていく。
ノートは定期的に回収し、学習状況をチェックする。
学期に数回小テストを実施し、理解度を確認しながらすすめる。

実習：調理実習は年3回実施する。
被服実習では小物を1作品完成させる。

○グレード別授業の基準

○指導計画(学習内容・考查等の予定)

家庭分野のガイダンス	教科書P172～私たちの衣生活 衣服の着用	教科書P148～私たちの住生活 住まいのはたらき
教科書P86～献立作成と食品 献立作成	衣服の入手	家族の生活と住まい
教科書P94～ 食品の選択	教科書P188～衣服の手入れ 衣服の手入れ	教科書P160～安全な住まい方の工夫 安全な住まい方の工夫
食品衛生	教科書P198～私たちの衣生活 衣服の処分	健康を守る住まい方の工夫
教科書P102～日常食の調理 と地域の食文化	被服実習	3学期末考查
日常食の調理		調理実習
地域の食文化	2学期末考查	
1学期末考查	調理実習	

○評価方法

各学期ごとに、期末考查・ルーブリック評価を行い、学期成績を算出し、すべての学期成績の平均を学年成績とする。
(期末考查50% ルーブリック評価50%)

※ルーブリック評価観点表は別紙参照

令和2年度 年間教科シラバス

中学・高校	中学	学年	3年		一貫
教科	技術・家庭	科目	家庭	単位数	0.5
担当者	全組	鍋嶋 智美			
教科書	技術・家庭科(家庭分野)教育図書		副教材	被服実習小物教材	

○学習到達目標

生活の自立に必要な基礎的、基本的な知識や技術を習得する。

①家庭分野 私たちの消費生活

消費者として必要な、消費生活に関する基本的な知識を、身につける。
環境に配慮した消費行動がとれるようになる。

○教科道徳教育到達目標

ものづくりや実習を主体的に体験することによって、ものの大切さを知り、より良い生活を送るための態度や知識を身に付ける。

○学習方法

講義：教科書、プリント、掲示資料等で学習を進めていく。

プリントは1枚ごとに提出し、学習状況の評価対象として成績に加味される。

返却プリントは家庭科専用ファイルに閉じて、各自で保管する。

実習：調理実習は年2回実施する。

○グレード別授業の基準

○指導計画(学習内容・考査等の予定)

家庭分野のガイダンス

教科書P228～消費生活
私たちの消費生活

教科書P234～消費生活
いろいろな買い物方法
買い物の法律的な意味

1学期末考査

教科書P242～消費生活
ねらわれている消費者
消費者トラブルの解決
買い物の社会的な意味

教科書259～家庭生活と環境
消費生活と環境とのつながり

学年末考査

教科書P264～家庭生活と環境
持続可能な社会をめざして

家庭分野の復習

○評価方法

各学期ごとに、期末考査・ルーブリック評価を行い、学期成績を算出し、すべての学期成績の平均を学年成績とする。
(期末考査50% ルーブリック評価50%)

※ルーブリック評価観点表は別紙参照

観点	評価段階				
	評価項目	A	B	C	D
知識及び技能	技術分野 ・生活や社会で利用されている。 材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術について基礎的な理解ができている。 ・それらに係る技能を身につけることができている。 ・技術と生活や社会、環境とのかわりについて理解を深めることができている。	十分にできており、積極的に新しい知識と技能の習得に取り組んでいる	おおむねできており、積極的に取り組んでいる	あまりできていないが、前向きに取り組んでいる。	まったくできていない
	家庭分野 ・家族、家庭の機能について理解を深めることができている。 ・衣食住、消費や環境などの生活の自立に必要な基礎的な理解ができており、それらに関わる技能を身につけている。	十分にできており、積極的に新しい知識と技能の習得に取り組んでいる	おおむねできており、積極的に取り組んでいる	あまりできていないが、前向きに取り組んでいる。	まったくできていない
思考力・判断力・表現力等	技術分野 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見つけ、課題を設定することができる。 ・課題の解決策を構想し、実践と改善を繰り返し課題を解決する力を身に付けることができる	十分にできており、現代の生活や社会の問題に積極的に関心を持っている。	おおむねできており、現代の生活や社会の問題に興味を持っている	あまりできていないが、前向きに取り組んでいる。	まったくできていない
	家庭分野 ・家族、家庭や地域における生活の中から問題を見つけ、課題を設定することができる。 ・課題の解決策を考え、実践と改善をしたことを表現(発表や製作)することができる	十分にできており、身の回りや地域の問題に積極的に関心を持っている。	おおむねできており、身の回りや地域の問題に興味を持っている	あまりできていないが、前向きに取り組んでいる。	まったくできていない
主体的に学習に取り組む態度	学習態度	・授業において他の生徒との協同の中心となり、全体の理解を深める役割を担う ・発問に対して意欲的に考え、聞き手を納得させる根拠を持った発言をする ・発言を意欲的に聞き、自分の意見と比較し、自分の考えを深める	・授業において他の生徒と協同し、意欲的に理解し合う ・発問に対して意欲的に考え、発言する ・発言を意欲的に聞き、自分の意見を持つ	・授業において他の生徒と協同し、意欲的に理解し合おうとする ・発問に対して意欲的に考え、発言しようとする ・発言を意欲的に聞き、自分の意見を持とうとする	・授業において他の生徒と協同し、意欲的に理解し合おうとしない ・発問に対して意欲的に考え、発言しようとする ・発言を意欲的に聞き、自分の意見を持とうとしない
	授業準備	与えられた課題に対し、自主学習を行い、期限内に提出できている。	与えられた課題を期限内に提出できている。	与えられた課題を、期限後ではあるが提出できている。	与えられた課題の提出ができていない。
	授業中	各活動に積極的に参加し、分からないところがあれば質問、または調べたりしながら理解につなげようとしている。	授業中の各活動に参加し、理解しようとしている。	授業中の各活動への取り組み方が物足りない。理解しようという姿勢が乏しい。	授業中の各活動に全く取り組んでいない。